アザミウマ類による中晩柑類の被害

春季の気温が高く、乾燥するとアザミウマ類の発生が多くなることがある。従来問題とならなかった春葉での被害や、イヌマキ等の無い場所でもチャノキイロアザミウマが多発し、被害が発生している事例が見受けられた。

○ミカンキイロアザミウマによる春葉の被害（せとか）

写真1　葉裏に生じた白斑

施設栽培で新葉に白斑が生じる被害が見られたことがあるが、露地栽培でも同様の被害が発生した。紅まどんなの様に強い黄化はみられない。

下草に多発したミカンキイロが、下草の枯死後、新葉に移動し加害したと思われる。

○アザミウマ類の加害による新葉の被害（せとか）

写真2　被害を受けた新梢

新葉が展葉せず、細く奇形したように見える。

写真3　新葉被害

葉表を内側に折り畳む様になっている。

写真4　新葉の加害痕

折れた部分に加害跡が残る。

チャノキイロの寄生が見られ、本種の加害が原因と思われる。

○チャノキイロアザミウマによる果実の被害

写真5　7月上旬（左）と収穫果（右）の被害状況（はるか）

果頂部の窪みに沿って加害することが多い。

写真6　果実への寄生（左　黄色円内）と7月上旬（中）と収穫果（右）の被害状況（せとか）

初期の被害跡が薄く、摘果時に判別が付きにくいものも多い。

果実でも新梢上でも幼虫がも見られることから、定着し長期にわたって加害を行っていると考えられる。